



先輩の一言で始まった 野外活動！！

浅野 晴良

Asano Haruyoshi

アウトドアショップ
「白馬堂 Rokko」オーナー
山と高原地図
「六甲・摩耶」(昭文社) 踏査執筆
元大阪北YMCAリーダー

▼YMCAリーダー活動から得た喜び

私は、体育指導者になりたいという目標を抱きつつ、大阪YMCA社会体育専門学校(以下、社体)に入学しました。それがYMCAとの出会いです。社体ではスポーツクラス実習があり、私はバスケットボールクラスを担当していました。当時大阪北YMCAでは、スポーツクラス担当と合わせて野外活動も担当するという暗黙のルールのようなものがあり(私の一回上の代までだったはずですが、松田先輩からの強制的な?誘いで)、小学生の野外活動クラブを担当することになりました。

これが、YMCA野外活動やキャンプ活動の始まりです。実は、「リーダーになりたい!」とか「子どもたちと野外活動がやりたかった!」というような意思を持っていたわけではありませんでした。

私の野外活動のルーツは、育ってきた環境にあります。今、私が経営している「白馬堂 Rokko」は、もともと祖父が経営していた「白馬堂」がルーツになっています。幼いころから、祖父と両親の影響を受け、山に行ってキャンプや釣りをする。冬はスキーに行くなど、ごく自然な形で家庭内野外活動がある日常という環境で育ちました。だから、私がリーダーとして子どもたちと一緒に野外活動・キャンプ活動でやってきたことは、自分自身が子どもの時から経験し、身につけてきたことや覚えていたことばかりです。でも、子どもたちとの野外活動・キャンプ活動は、自分の経験や知識を伝えるだけでなく、「こうやったら楽しいな」「もっとこんな風にできるな」という子どもたちの自由な発想や工夫が加わり、いつも遊びの展開が広がっていきます。子どもたちに教えながらも、自分が一緒に楽しみ、成長できることはY M C Aリーダー活動ならではのものだと思います。

また、4年間のリーダー活動で関わる子どもたちの成長や変化、中学生たちが大学生ボランティアリーダーになっていくという姿を見ることも大きな喜びになりました。関わった子どもたちの一人ひとりの成長から、自分自身の成長を感じることができたということが、Y M C Aリーダー活動を続けてきた中で得た一番大切なことだと思います。当時私が一緒に活動していた中学生メンバーの菅田斉さん（現大阪Y M C Aスタッフ）は、「ぼくの夢はY M C Aのスタッフになること！」と言っていたことを鮮明に覚えています。



《リーダー活動で担当の中学生クラブのメンバーに菅田斉さんも！》

今でも、Y M C Aをキーワードにつながって一緒に仕事や活動をしている多くの方々がいま。現状の課題や取り組みの共有、キャンプや野外活動の未来を語り合うことはとても楽しいし、このような人のめぐりあわせがあることがY M C Aの魅力だと改めて感じています。

▼無ければ「つくる」というYMCAらしい発想

とても印象に残っている活動が、新しい野外活動クラブ「父と子の野外活動クラブ」の立ち上げに関わったことです。当時の大阪北YMCAは、野外活動の会員数がとても多く、通常の活動だけでも大変だったと思いますが、常に社会課題にも目を向けて新しい取り組みへのチャレンジを続けていました。その一つが、働くお父さんが子どもとの共通体験が少ないという課題に対しての取り組みでした。親と子どもが共通体験をしようということにスポットを当てたYMCAの取り組みは、当時の最先端だった印象があり、YMCA若手スタッフのアイデアが実現していることを目の当たりにできたことも、今の自分に活かされている大きな体験です。

この「父と子の野外活動クラブ」で、YMCA阿南国際海洋センターでの宿泊キャンプを実施しました。事前にお父さんたちに練習をしてもらい、お父さんが我が子に直接教えるというプログラムの組み立てや、お父さん同士のネットワークが生まれるなど、「つながり」を仕掛けたYMCAならではの活動になっていきました。

今、私はいろいろな人のつながりと縁をきっかけに、山と高原地図「六甲・摩耶」の踏査執筆を担当して18年になります。広く登山者に使われているこれらの地図は、毎年踏査担当者が歩いてコースを確認しています。私が「六甲・摩耶」の地図踏査を担当する上で意識していることは、この山の地図が登山熟練者ためだけではなく、家族や子どもたちが歩くためにも役立てていただきたい、もちろんリーダーにも！ということです。そのための情報が必要かつ重要であると考えて、所用時間やコース難度の設定の判断をしています。この視点は、YMCAでのリーダー活動を通して多くの子どもたちと関わり、一緒に生活や活動をしてきた中で、対象年齢に応じた行動や運動量を体験的に学んできたからできることだと感じています。



《Mt.Rokko Outdoor Session 六甲山でのアウトドア大好きな人の集いより》

やりたいことを実現させるために新しいことを学び、知識を持つこと。そうすることで、必ず新しいチャレンジは形になるし、自分が積み重ねてきた経験は必ず活かされる、この発想が今の私の仕事に通じる力になったと考えています。

▼これからのYMCA、これからのリーダーに期待すること

世の中の変化は著しく、デジタル化・データ化が進んでいます。山歩きをする方でも、スマホで地図を見る人が増え、紙媒体の地図も今の形が残るかどうかはわかりません。効率化が進み不要なものは無くなることが多いようにも感じています。今、地図の仕事を担いながら感じることは、私が受け継いできた知識や技術、この仕事への想いを次につなげていくという役割を担うことが大事であるということです。



キャンプ活動や野外活動に対する社会での役割や期待されることは変わっていくかもしれませんが、でも、キャンプ活動や野外活動を通じた人の成長を次世代へつなげる役割は、変わらずYMCAが担い続けることができると思います。世代が変わって、リーダーの子どもがまたYMCAに関わる、これがYMCAならではの人のつながりの連鎖です。このようなつながりの中で、自発的に物事を考え、動くことができる青年を育み続けることができることは、YMCAだからこそできる強みだと考えています。これからも、このような強みを活かしたYMCAがいつまでもあり続け、「生きる力」と「生き延びる力」を学べるYMCAであって欲しいです。

Profile



1972 年生まれ。

大阪YMCA社会体育専門学校 8 期生。

先輩の誘いをきっかけに大阪北 YMCA 野外活動リーダーとして 4 年間活動を行う。卒業後 11 ヶ月土佐堀YMCAのフィットネスセンターにて勤務、その後高槻市摂津峡青少年キャンプ場管理人を経てフリーランスで野外活動、環境教育をテーマに活動。

六甲山中で赤松滋氏との再会がきっかけで昭文社山と高原地図「六甲・摩耶」に携わる。

現在は、阪急六甲駅にてアウトドアショップ「白馬堂 Rokko」を運営しながら、六甲山の活性化と安全性の向上をモットーに活動している。